

浜松市 ● 地域連携型テレワークの実験に挑戦

### テレワーク・デイズ&月間を有効活用・浜松事例が熱い

#### ● 広域連携型テレワークイベント

人口 80 万人。行政面積が全国で2番目に広い政令指定都市・静岡県浜松市が、テレワーク・デイズやテレワーク月間を地域に取り込んで盛り上がりを見せようとしている。

秋のデイズ・月間活動イベントは、2018年11月21日、「テレワーク・デイズ／ハママツ 2018 秋」というテーマで、浜松駅前にあるコワーキングスペース・Any で開催された。

参加者は浜松でテレワークに関心のある企業団体の経営者等 40 名。

プログラムは、セミナーを中心に展開され、テーマは、働き方改革やテレワークに対するアプローチを「IT 活用」の面から、また、「幸福学」の側面から、そして「働く場所」の面からのセミナー形式で行われた。

・<https://teleworkdays-amamatsu.biz/>

このセミナーの特徴は、名古屋市内で開催された研究会と連携し、遠隔のテレビ会議システムを活用して同時開催されたものだった。

#### ● きっかけは7月のデイズイベント

毎年 11 月に全国で開催されるテレワーク月間では、「学ぶ」「実践する」「協力する」という3つの登録タイプがあるが、「学ぶ」テーマに関連したセミナーや勉強会の開催は、今では珍しくない。しかし、ここで紹介するセミナーは、一味違う。

このイベントを仕掛けているのが、浜松地域でテレワークをビジネスモデルとして展開する NOKIOO 代表の小川氏だ。

実は、11 月の仕掛けの契機となったのは、今年7月 24 日に開催された「テレワーク・デイズ／ハママツ 2018」だった。浜松出身で長く大手 SIer で官庁向けシステム構築・運用に対するシステムソリューション営業に携わってきた小川氏は、2006 年に地元浜松に U ターンする。主に Web の開発やシステムソリューション提供のための会社を起業。地元での新しいビ

ジネス展開を志した。

その中で直面したことのひとつが「地域のビジネスを活性化させ、人材を確保するためには、働き方そのものの革新がなければならない」という課題だった。テレワークとの出会いである。

しかし、地域でテレワークを通じた働き方改革を成功させるためには、自社だけの改革では、あまり効果がない。そこで、旧来からの知人であり先輩経営者に声をかけ、地域にテレワークを普及させるイベントを実施。地域全体を「働きやすい地域」としてイメージの浸透を図る必要があると考えた。

7月のデイズでは、浜松城公園にテントを張り、青空のもとでのテレワークを実践。地域の企業7社が一同に会し、一大イベントを組んだ。

結果として、大きな反響を呼び、浜松にテレワークあり、というイメージづくりの基礎ができた。

・<https://www.nokioo.jp/news/more/240>

#### ● 地域テレワーク成功のポイント

地域でテレワークを実施する中小企業やベンチャーは多くはない。特に地域においては、企業や団体が単独で実施しても波及効果は薄い。

あえて今回の成功の秘訣をあげれば

- ① 浜松という地域のブランドと、働き方改革のある街、というイメージが合体できれば、地域で快適に仕事をする環境が出来上がるはずという発想があった。
- ② 地域の老舗企業経営者を巻き込んで、イベントという方法で啓発したことが挙げられるだろう。

結論は、「働き方改革を通じた地域のブランドづくり」という理念の共有化が、地域テレワーク普及のコツである。ここが、小川氏の苦勞した点でもあった。次は、2019 年初春、次のイベントを企画しているという。

今後の浜松の動きに興味は尽きない。  
(文責 月間委員会事務局)



7月に開催されたデイズでは、浜松城公園の広場に野外施設が展開されて話題を呼んだ。



浜松市内にある NOKIOO のサテライト キャンピングオフィス



テレワーク月間の特設サイト  
<https://teleworkdays-amamatsu.biz/>



#### 小川健三氏

1977 年静岡県生まれ。2001 年神戸大学を卒業後、日本電気株式会社にて官庁向けシステム構築・運用営業等に携わる。2006 年に浜松に U ターン。IT 系・WEB 系企業で ERP システム導入コンサルティングに携わった後、2011 年 (株) NOKIOO を創業。「地方 × IT × 女性」「次世代の人材づくり」をテーマに、地方から成長するベンチャー企業づくりにチャレンジ。Hamamatsu Venture Tribe 発起人・代表者。